MIMOCA
Marugame Genichiro-Inokuma Museum of Contemporary Art

プレスリリース
2024.3.22

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館　2024年度事業のご案内

撮影：増田好郎

1991年の開館から33年を迎える丸亀市猪熊弦一郎現代美術館（MIMOCA）では、展覧会事業を核としつつ、教育普及や地域との連携交流に根ざした多様なプログラムを展開します。
企画展では、猪熊弦一郎のハワイ時代に焦点を合わせた「**猪熊弦一郎展　ホノルル**」を皮切りに、独創的な「ヘッドピース」を編み出し続けた加茂克也の先鋭的な仕事を俯瞰する「**加茂克也　KAMO HEAD**（仮称）」、国内外のアーティストの作品から多様な「ホーム」を見つめ直す「**ホーム・スイート・ホーム**」、そして2022年度に立ち上げた公募展「MIMOCA EYE」の大賞受賞記念展として行う「**西條茜展**（仮称）」へと続きます。絵画、ファッション、映像、インスタレーション、陶といった幅広い領域をカバーしつつ、４つの企画展を通して、**再出発**や**再考**、**挑戦**や**独創**といったキーワードを配置しています。一方、常設展では猪熊研究に基づきつつ、映像資料や立体作品の紹介といった新しい取り組みを通して、４つの猪熊弦一郎展を予定しています。さらに教育普及プログラムでは、ワークショップの定期的な実施のほか、**丸亀市内の全小学３年生をMIMOCAに招くプロジェクト**の実現に向けたモデル事業に取り組み、また、地域のみなさまにMIMOCAをより身近に感じていただく「**MIMOCA'S BIRTHDAY**」（開館記念日イベント）といった地域連携プログラムにも注力します。2024年度も多彩なメニューを展開するMIMOCAにぜひご注目ください。

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 / 公益財団法人ミモカ美術振興財団
広報担当：佐伯美帆、島田里都子
〒763-0022 香川県丸亀市浜町80-1
TEL 0877-24-7755　FAX 0877-24-7766
E-MAIL press@mimoca.jp　URL www.mimoca.org

MIMOCA

企画展

猪熊弦一郎（1902-1993）は美術館の役割について、「未来に向かってアーティストがどういうふうに方向づけ、今にないものを発見していくかっていう、一番大事で一番難しいことの結果を見せる美術館であってほしい」*と語っていました。
当館はこの言葉を指針に、毎年、現代美術を中心とした企画展を開催しています。
本年度開催する５つの展覧会をご紹介します。

*出典　猪熊弦一郎が亡くなる３日前（1993年５月14日）にMIMOCAの職員に語った話を録音したカセットテープより

猪熊弦一郎展 ホノルル

【2024.3.23（土）－6.2（日）】

“アメリカに又第一歩” ハワイ時代の画業を紹介

1973年に患った病をきっかけに、ニューヨークでの活動に区切りをつけることとなった猪熊弦一郎（1902-1993）。翌年、降り立ったハワイの青空に勇気づけられ、アメリカでの再出発を決意します。その後ホノルルにアトリエを構え、1976年には現地で見た虹にインスピレーションを得た絵画を完成させます。以降、ハワイの自然からの影響や宇宙への関心がうかがえる鮮やかな絵画の数々を生み出しました。
本展では、猪熊のハワイ時代の作品を一堂に展示するとともに、その制作活動を知る手がかりとしてホノルルのアトリエの様子や、現地の虹や生命力に溢れる植物などを捉えた写真資料もご紹介します。高層ビルが並ぶニューヨークから自然豊かなハワイへ。新たな環境に支えられながら、より自由に、自ら描くべきものを追求したハワイ時代の表現をどうぞご覧ください。

後援：ハワイ州観光局

猪熊弦一郎《広場の中の言葉》1984年 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館蔵
©公益財団法人ミモカ美術振興財団

加茂克也 KAMO HEAD（仮称）

【2024.6.30（日）－9.23（月・祝）】

彫刻のような「ヘッドピース」加茂克也の独創性に迫る

世界の名だたるファッションブランドと多数のコラボレーションを行い、モードの最先端で活躍したヘア＆メイクアップアーティスト、加茂克也（1965-2020）。モデルの顔を覆い隠したり、鳥の羽や砕いたガラス片といった思いがけない素材を用いるなど前衛的でありながら、気品と造形美をあわせ持つ加茂のヘアメイクデザインは、発表のたびに注目を集めました。中でも加茂の手によるヘッドピースは、彫刻のような普遍的な美を有し、ファッションでありつつ唯一無二のアートピースとして強い存在感を放ちます。

本展では、トップブランドのファッションショーで実際に使用したヘッドピースを中心に、アイデアや制作過程の記録、雑誌記事、プライベートで制作していた立体作品などによって、加茂の創作活動を俯瞰的に展観します。「イサム・ノグチと三宅一生 ARIZONA」（1997）、「拡張するファッション」（2014）に続いて、当館では3度目のファッション展となります。

Courtesy of ANREALAGE、撮影：戎康友

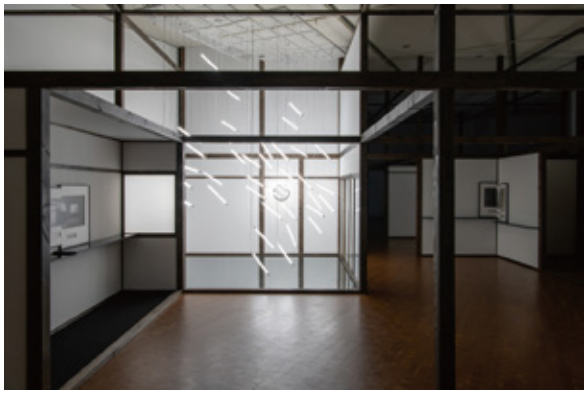
ホーム・スイート・ホーム

【2024.10.12（土）－2025.1.13（月・祝）】

ビターな社会の中で見つめ直す、私たちの多様な「ホーム」

パンデミック期の「ステイホーム」の経験は、私たちに「ホーム」を強く意識させる機会になりました。一方、国際的な紛争などを背景に、世界各地で多数の新たな難民が生み出されています。このような社会に生きる私たちにとって、「ホーム」とはどのよう なものでしょうか。本展は、歴史、記憶、アイデンティティ、私たちの居場所、役割等をキーワードに表現された国内外の現代美術家の作品群から、「ホーム」の多様な意味を再考します。

共催：国立国際美術館
出品作家（予定）：マリア・ファーラ、潘逸舟、石原海、
鎌田友介、リディア・ウラメン、
竹村京、アンドロ・ウェクア



鎌田友介《Japanese Houses》2023年「ホーム・スイート・ホーム」展示風景（国立国際美術館、2023年）撮影：福永一夫 作家蔵

「第 1 回 MIMOCA EYE / ミモカアイ」大賞受賞記念 西條茜展（仮称）

【2025.1.26（日）－3.30（日）】

満を持して西條茜の個展開催

若いアーティストが独自の才能をはばたかせる起点として2022 年に始まった公募展「MIMOCA EYE / ミモカアイ」。その第１回大賞受賞者である西條茜の個展を開催します。西條は陶を素材とした作品で自他の身体へと意識を傾ける瞬間を作りだし、他者との境界や関わりについて考察してきました。本展では新たな素材へも挑戦し、更なる深化を試みます。

「西條茜展（仮称）」に合わせて、企画展「猪熊弦一郎展」を同時開催します。

西條茜《果樹園》2022年 Photo：Takeru Koroda

常設展

企画展の会期に合わせて常設展を開催します。会期毎にテーマを設け、所蔵する猪熊弦一郎（1902-1993）の作品をご紹介します。

常設展開催スケジュールと概要

【2024年3月23日ー6月2日】

当館は近年、猪熊弦一郎に由来する8ミリ、35ミリフィルムなどの資料のデジタル化を進めています。本展では絵画作品に加えて、これらの貴重な映像資料もあわせて展示します。

【2024年6月30日ー9月23日】

90歳まで描き続けた猪熊弦一郎は、その70年に及ぶ画業のなかで何度か作風を変化させました。時々の自分を精一杯ぶつけて描いた初期から晩年までの作品をご紹介します。

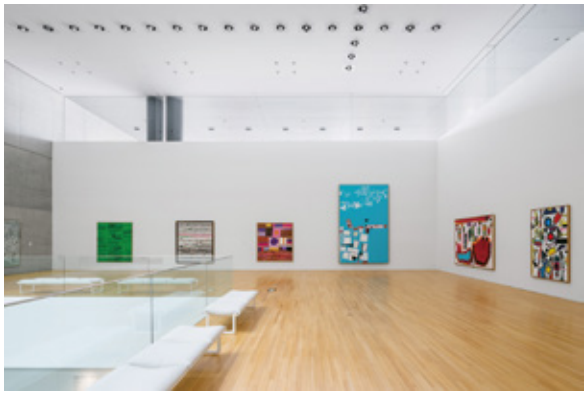
【2024年10月12日ー2025年1月13日】

「ホーム」とは何かを問う企画展「ホーム・スイート・ホーム」にあわせ、国内外で生活・制作の拠点を何度か変え、また生活に対する芸術のあり方を考えていた猪熊弦一郎にとっての「ホーム」を探究します。

【2025年1月26日ー3月30日】

猪熊弦一郎は絵画のほかに立体作品も制作しています。空間への関心も高かった猪熊の立体作品を集め、これまであまり知られてこなかった新しい面に光をあててご紹介します。

展示室A　撮影：増田好郎



展示室B　撮影：増田好郎

関連イベント

キュレーター・トーク

毎月第１日曜日に、ラーニング・プログラムの取組として展覧会担当キュレーターによる「キュレーター・トーク」を開催しています。キュレーターが展示室をご案内しながら作品を解説します。

申　込：不要
料　金：参加費無料（ただし展覧会の観覧券の提示が必要です。）

企画展「回復する」関連プログラム　キュレーター・トークの様子

親子でMIMOCAの日

高校生または18歳未満の観覧者１名につき、同伴者２名まで観覧無料になるプログラムです。保護者の方々が子どもと一緒に気軽に美術館に来館いただけるよう、各展覧会の関連プログラムとして、会期中に１回開催しています。

過去の「親子でMIMOCAの日」の様子

プレスプレビュー

企画展開幕前に報道機関向けにプレスプレビューを開催しています。企画展によっては出品作家による解説もあります。

企画展「須藤玲子：NUNOの布づくり」プレスプレビューの様子

アート・コミュニケーション事業

猪熊弦一郎が大切にしていた「子どもへのアート教育」を軸として教育普及事業や、地域連携事業を行っています。芸術の場において、個々の感性を育み、新たな交流を生み出し、豊かな文化を創り出すことを目的に事業を展開しています。子どものためのアート教育において、開館以来30年間、ワークショップなどを通して、美術を身近に感じてもらうための取り組みを継続的に実施しています。

小学３年生「MIMOCAの日」プロジェクト

当館では、子どもたちが芸術に触れ、体験的に学ぶ場として県内外問わず学校団体の来館をスクール・プログラムとして積極的に受け入れています。
本プロジェクトは丸亀市の子どもが小学生活の中で一度は必ず来館できるよう、市の教育委員会と連携し、実行するものです。人格形成において重要な時期である小学３年生を対象に「よりよく生きるを学ぶ」というテーマのもと総合学習時間での来館を促進します。美術館での滞在を通して自分の気持ちを表現し、対話を重ねながら他者への理解を生み出す機会となることを試みます。2023年度にスタートし、モデル校との研修と実践を行い、2025年以降は毎年、市内全校の来館が実現することを目指します。

丸亀市立栗熊小学校（2023年７月４日）

実　施：通年
主　催：丸亀市猪熊弦一郎現代美術館／公益財団法人ミモカ美術振興財団、丸亀市教育委員会

開館記念イベント「MIMOCA’S BIRTHDAY」

当館は1991年11月23日に開館しました。この日を当館の誕生日として、毎年感謝の気持ちを込めて、無料開館をはじめ、さまざまなイベントを実施してきました。本年も、一年に一日だけの特別な日をみなさまと過ごすために全館あげて企画を考えます。準備から実施の中で地域の方々とのつながりを深め、美術館と来場者との交流を生み出すことを目指します。

実　施　日：2024年11月23日（土・祝）

2022年度ゲートプラザのイベントの様子　撮影：福田ジン

2023年度ゲートプラザのイベントの様子　撮影：大峯達磨

商品企画

ミュージアムショップでは、当館が所蔵する猪熊弦一郎の作品をモチーフにしたさまざまなグッズや企画展関連グッズを販売しています。「人々の身近なところに美しく、愉しいものを」という猪熊の思いのもと、オリジナル商品を開発しています。

販売がスタートした新商品について

【NUNO for MIMOCA】

昨秋、テキスタイルデザイナーの須藤玲子と、須藤が率いる「NUNO」の活動を紹介する展覧会を開催しました。須藤は、この巡回展「須藤玲子：NUNOの布づくり」が評価され、令和５年度（第74回）芸術選奨文部科学大臣賞を受賞しました。
本展を機に、「NUNO」の高い技術を落とし込んだミュージアムグッズを企画開発する新たな取り組み「NUNO for MIMOCA」を開始。
現在、猪熊弦一郎のドローイング《顔25》をモチーフにしたテキスタイルが、様々なプロダクトとなって当館ショップに並んでいます。

【新商品のお知らせ】

今春、当館で開催する企画展「猪熊弦一郎展　ホノルル」に合わせたトートバッグとマグカップを数量限定で販売します。「ホノルル」をイメージした、爽やかで軽やかなオリジナルブレンドのコーヒーも登場します。今年後半には、毎年恒例の猪熊作品を使用した卓上カレンダー（2025年版）も登場いたします。

当館ミュージアムショップ以外でも、オリジナルグッズをお取り扱いいただいております。
※在庫・取り扱い状況は、各店舗により異なります。

店舗（五十音順）	OIKAZE（香川県丸亀市）	TSUTAYA BOOKSTORE
	かがわ物産館 栗林庵（香川県高松市）	TAKAMATSU ORNE（香川県高松市）【NEW】
	gallery&shop aoi door（香川県高松市）	本屋ルヌガンガ（香川県高松市）
	高松空港「四国空市場」（香川県高松市）	まちのシューレ963（香川県高松市）
		Loupe（東京都杉並区）
ECサイト	ふるさとチョイス、楽天ふるさと納税、ふるなび	

美術館について

丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

撮影：増田好郎

当館は、丸亀市の市制施行90周年の記念事業として、丸亀市ゆかりの画家・猪熊弦一郎の全面的な協力のもと1991年11月23日に開館しました。建築家の谷口吉生による美しい建築を丸亀駅前に構える当館は、猪熊本人から寄贈を受けた約2万点の猪熊作品を所蔵し、常設展で紹介するとともに、現代美術を中心とした企画展を開催しています。また、講演会やコンサートなどの多彩なプログラムや、子どもの感性や創造力を育むワークショップなどを開催し、教育を目的とした活動にも力を入れています。気軽に立ち寄り、美しい空間でいい作品を見て、新鮮な刺激を受けて心が元気になる場所であることを美術館に求めた猪熊は、MIMOCAのあるべき姿として「美術館は心の病院」という言葉を残しました。猪熊の思いが込められたMIMOCAが、みなさまの「心の病院」となれば幸いです。

【館の特徴】

- 美術館は、JR丸亀駅南口を出てすぐ目の前です。
- 高校生以下または18歳未満は無料で観覧出来ます。
- 館の正面玄関であるゲートプラザは、24時間開放。屋外作品を自由に鑑賞出来ます。
- ゲートプラザ、ミュージアムショップ、アートセンター、カスケードプラザは、観覧料なしで自由に出入り出来ます。

猪熊弦一郎

撮影：高橋章

1902年、香川県高松市に生まれ、旧制丸亀中学校（現丸亀高校）卒業。その後上京し、東京美術学校（現東京藝術大学）に進学、藤島武二教室で学ぶ。1938-40年、パリに遊学、アンリ・マティスに学ぶ。戦後は、三越包装紙「華ひらく」のデザインや、国鉄上野駅（現JR上野駅）の壁画《自由》を手がけた。1955年 にニューヨークに渡り、以降約20年間、同地を制作の拠点とする。1975年からは東京とハワイで制作を続けた。1991年、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館開館。1993年、90歳で死去。

当館へのアクセスと問い合わせ

当館へのアクセス方法はこちら

本リリースに関する問い合わせはこちら